

吉岡堅二と日本画表現の革新

戦後間もなくの1948(昭和23)年に、「我等は世界性に立脚する日本絵画の創造を期す」との綱領を掲げて結成され、以後新しい時代の日本画の表現を追求してきた団体「創造美術」に関係した画家たちの活動に注目した展覧会を、田辺市立美術館は継続して開催してきました。「創造美術」の結成から60年を迎えた2007(平成19)年に、「創画会60年展」を開催してその歩みを振り返り(「創造美術」はその後「新制作協会日本画部」を経て、現在の「創画会」へと変遷してきました)、その後、山本丘人(1900～1986)、上村松篁(1902～2001)、奥村厚一(1904～1974)ら「創造美術」を創立して、その運動を率いてきた画家たちそれぞれの芸術を紹介する展覧会を開催してきました。

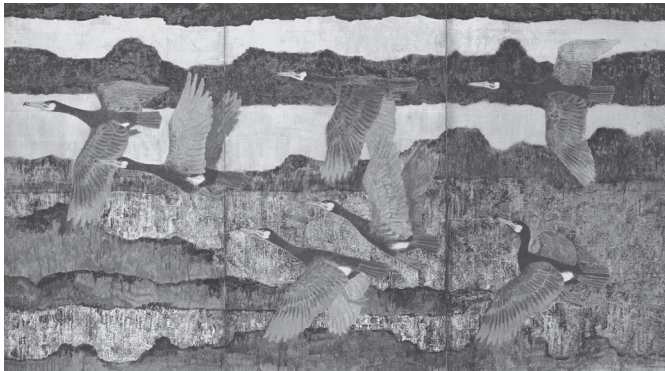
今年度は、同じく「創造美術」創立会員の一人である吉岡堅二(1906～1990)の生誕110年を記念して、その画業を回顧する特別展を開催します。吉岡堅二のことを、ここで簡単に振り返っておきます。

吉岡堅二は1906(明治39)年に日本画家、吉岡華堂の次男として東京に生まれましたが、華堂は堅二が10歳のときに42歳で亡くなっています。堅二は一時期彫刻家を目指すものの、1921(大正10)年、15歳のときに、華堂と同門で親交のあった画家、野田九浦の画塾「居仁堂」に入門して、父と同じ日本画の道を歩み始めました。以後九浦のもとで日本画の伝統的な技法を着実に吸収し、1926(大正15)年、20歳のときには帝展に初入選します。1930(昭和5)年の帝展では特選を受賞するまでになりますが、この頃より西洋絵画の手法を取りこんだ表現を自身の制作に用い始め、新しい感覚の日本画を発表して注目されます。やがて福田豊四郎(1904～1970)ら志を同じくする若い画家たちとともに「山樹社」、「新日本画研究会」、「新美術人協会」といった会を結成して斬新な作品を積極的に発表し、日本画の革新を牽引する存在となってゆきました。

その活動は戦争で一時止まりますが、戦後は、山本丘人、上村松篁、福田豊四郎らとともに、旧態依然とした日本画壇の体質を批判して「創造美術」を結成する中心的役割をはたし、以後の「新制作協会日本画部」、「創画会」においても、現代的な日本画の表現を世に問う力作を次々と発表して、常に会を代表する画家の一人として活躍しました。



吉岡堅二《群鶴》1953(昭和28)年 神奈川県立近代美術館蔵



吉岡堅二《翔》1986(昭和61)年 佐久市立近代美術館蔵

吉岡堅二の活動と作品はそうした日本画界の改革者としての側面に焦点があたりがちですが、一方では、1959(昭和34)年から前田青邨(1885～1977)の後任として東京藝術大学の教授に就任して後進の指導にあたり、法隆寺金堂壁画の模写にも1940(昭和15)年、1967(昭和42)年の二度にわたって携わるなど、古典的な画材、技法に精通した画家としても評価は高いものでした。このような多彩な活動を展開して、吉岡堅二は1990(平成2)年に83歳で亡くなりました。

この度の展覧会は、生前の1988(昭和63)年に山種美術館で開かれて以来の回顧展となります。初期から晩年までの代表的な作品約40点によって、改めて吉岡堅二の芸術を広く紹介する機会にしたいと思います。

この展覧会を田辺市立美術館で開催している期間、熊野古道なかへち美術館では、収蔵品による「戦後の日本画」と題した展覧会を開催します。「創造美術」の活動に共鳴し、その展覧会に応募して認められ、自らの芸術を確立していった次の世代の画家たち、稗田一穂(1920～)、加山又造(1927～2004)、麻田鷹司(1928～1987)らの作品を特集して展示します。

「創造美術」創立の会員たちばかりでなく、後に続いた画家たちの活動もまた、日本画の表現を大きく拓いてゆくものでした。既に作風を築き上げていた創立会員たちの方が、むしろ若い画家たちの意欲的な取り組みに刺激を受けて、思い切った表現に挑んでゆくといった様もうかがえます。「創造美術」から世に出て行った画家たちの制作の履歴が、そのまま日本画の現代化の過程と重なると言っても過言ではありません。その一端をこの展観でお伝えできればと思います。

特別展「生誕110年記念 吉岡堅二展」と館蔵品展「戦後の日本画」、田辺市立美術館開館20周年の年度を締めくくるこの二つの展覧会によって、日本画表現の奥深さを堪能していただけるのではないかと思います。皆様のご来館を心よりお待ちしております。(学芸員 三谷 渉)



稗田一穂《水影》1962(昭和37)年 田辺市立美術館蔵

INFORMATION

特別展 生誕110年記念 吉岡堅二展

会 場／田辺市立美術館
主 催／田辺市立美術館
会 期／平成29年2月11日(土・祝)～3月26日(日)
観覧料／600円(480円)
学生及び18歳未満の方は無料
※()内は20名様以上の団体割引料金です。
開館時間／午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日／毎週月曜日(3月20日は開館)・3月21日(火)

館蔵品展 戦後の日本画

会 場／熊野古道なかへち美術館
主 催／田辺市立美術館
会 期／平成29年2月11日(土・祝)～3月26日(日)
観覧料／250円(200円)
学生及び18歳未満の方は無料
※()内は20名様以上の団体割引料金です。
開館時間／午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日／毎週月曜日(3月20日は開館)・3月21日(火)

田辺市立美術館では開設準備室段階の平成6年度から現在に至るまで、積極的に作品の収集活動を続けています。田辺市出身の実業家・故脇村禮次郎氏の遺志により、旧蔵の文人画コレクションなど100余点が財団法人脇村奨学会から寄託されたことが田辺市立美術館開設の基点となっていますが、文人画についてはこのコレクションを軸として南紀文人画を中心に積極的に収集を続けてきました。また、油彩画、日本画、水彩画をはじめとする近代絵画についても、購入による収集だけではなく作家や所蔵家、及びそのご遺族の方々のご厚意やご協力をいただき、地方の美術館としては他に類を見ないほどの質の高さを誇るコレクションを有するに至っています。特に平成9年



祇園南海《五老峰図》

REPORT

特別展「鈴木理策写真展」 田辺市立美術館・熊野古道なかへち美術館

4月16日(土)～6月26日(日)

- 記念講演会「写真の時間・生きている時間」
【日時】4月16日(土)午後2時～午後3時30分
- 「国際博物館の日」記念公開対談
【日時】5月14日(土)午後2時～午後3時30分
- エンディング・コンサート
【日時】6月26日(日)午後7時～午後8時30分

「見る」という行為を問い続ける表現によって、国内外から高い評価を受けている和歌山県新宮市出身の写真家、鈴木理策の近年の活動を紹介する展覧会を、4月16日(土)から6月26日(日)にかけて田辺市立美術館と熊野古道なかへち美術館の二会場で開催しました。

田辺市立美術館では、「見る」という行為から生まれる「意識の流れ」をテーマに「海と山のあいだ」、「SAKURA」、「White」、「Étude」の4つのシリーズを展観し、熊野古道なかへち美術館では最新のシリーズ「水鏡」によって会場を構成しました。会期中に、鈴木さんの作品をより深く鑑賞していただくために3つのイベントを催しました。

最初の催しは、展覧会の初日に田辺市立美術館のエントランスホールで開催した、作家本人による講演会「写真の時間・生きている時間」です。鈴木さんは「写真を「見る」という行為に慣れた現代人は、そこに何が写っているか判ったとたんに「見る」ことをやめてしまう」と言い、本展覧会の出品作を中心に画像を示しながら、「自らの写真で、写真を



講演会 (田辺市立美術館)



公開対談 (田辺市立美術館)

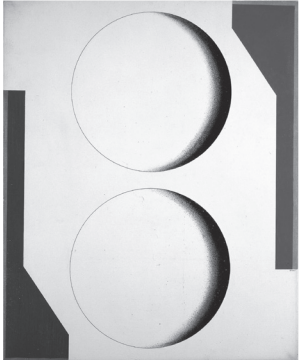
度にご寄贈いただいた故脇村義太郎氏旧蔵の近代絵画の秀作30余点は当館所蔵品の核となっています。

平成17年度の市町村合併により熊野古道なかへち美術館が田辺市立美術館の分館となってからは、現在活躍している作家の活動を積極的に紹介するなど、現代美術の分野にも視点を広げ、幅広い展覧会活動を行っています。今年は田辺市立美術館が開館してちょうど20年を迎えることから、当館がこれまでに収集してきたコレクションの数々を文人画・現代絵画・近代絵画の三つに会期を分けて、田辺市立美術館、熊野古道なかへち美術館の両館を会場にして紹介します。

(主任 辰巳 充)



有島生馬《熊谷守一肖像》1930(昭和5)年



菅井汲《円と円》1969(昭和44)年

「見る」ことの豊かさを改めて提示したい」と語ってくれました。普段何気なく見ている写真から、新たな世界の見方を知ることが出来るということを示してくれた、刺激的な内容の講演でした。

会期半ばの5月14日(土)には、田辺市立美術館の研修室で、画家の諏訪敦さんにお越しいただいて、鈴木さんとの公開対談を行いました。静止した画面に時間、あるいは記憶を込めるという共通点を持つ2人の対談は、絵画に込められた時間、写真に込められた時間、それぞれについての話から始まりました。「見る」という行為と時間との関係について、またそこから知覚の問題にまで触れてゆく中身の濃い対談となり、両作家の芸術制作について深くうかがうことができました。なおこの公開対談は国際博物館会議(ICOM)が制定している「国際博物館の日」の記念事業として行いました。

展覧会の最終日には、国際的に活躍されているリュート奏者の坂本龍右さんをお招きして、エンディング・コンサートを開催しました。現実の世界と水面に映る鏡像がないまぜになった「水鏡」のシリーズに囲まれた熊野古道なかへち美術館の展示室を会場に、静謐なリュートの音楽がつつまがれました。バロックからルネサンスへと時代を遡ってゆく構成のプログラムによって、私たちは古の時の流れへと誘われました。私たちを次第に「聴く」という意識の深みへ導いたコンサートは、消えゆくリュートの音とともに終了し、展覧会もその余韻の中に締めくくられました。

(学芸員 知野 季里穂)



コンサート (熊野古道なかへち美術館)

1996年11月1日	田辺市立美術館開館
1998年2月14日	脇村義太郎氏のご遺族から佐伯祐三、村上華岳等の近代絵画の名作を主とした旧蔵品35点の寄贈を受ける
1998年4月28日	南紀熊野体験博開会式にご臨席の秋篠宮同妃両殿下が当館をご視察、特別展「南方とその周辺の画家たち」をご高覧になる
2000年3月23日	特別展「鍋井克之展」を開催中に、開館以来通算10万人目の来館者を迎える
2001年11月18日～2002年2月11日	開館5周年記念特別展「クール展」を開催
2001年12月21日	田辺市立美術館設置及び管理条例を一部改正、翌年4月1日より小中学生と同伴者の土曜日の観覧料を無料にする
2005年5月1日	市町村合併により、旧中辺路町立熊野古道なかへち美術館が「田辺市立美術館分館 熊野古道なかへち美術館」となる
2005年11月16日	小企画展「川口軌外の作品を中心に」を開催中に、開館以来通算15万人目の来館者を迎える
2006年9月23日～2007年3月25日	開館10周年記念特別展として、「水彩画の近代」「日本画の個性」「表現主義の流れ」「写実と抽象」の各章を一つの展覧会とした「近代日本絵画の諸相」を開催
2009年2月20日	原勝四郎のご遺族から油彩画・素描等965点の寄贈を受ける
2010年4月1日～6月30日	3ヶ月間休館し、玄関階段周辺及び空調設備の改修工事を行う
2010年12月28日	田辺市立美術館条例を一部改正、翌年4月1日より18歳未満及び学生の観覧料を無料とする
2011年5月22日	第62回全国植樹祭にご臨席の天皇后両陛下が当館をご視察、特別展「脇村義太郎と禮次郎 珠玉のコレクション」をご高覧になる
2011年11月1日	開館15周年
2011年3月22日	特別展「生誕110年記念 上村松篁展」を開催中に、開館以来通算20万人目の来館者を迎える
2015年4月18日～11月8日	田辺市合併10周年を記念して「墨に彩られた世界～文人画・禅画・南画」「色彩が魅せる世界～洋画・水彩画・近代日本画～」を開催、会期中の10月5日に紀の国わかやま国体にこ臨席の寛仁親王妃信子殿下が当館をご視察
2015年12月1日～2016年3月31日	4ヶ月館休館し、外壁塗装工事及び展示室照明設備改修工事等を行う
2016年7月9日～8月28日	開館20周年記念特別展「昭和の洋画を切り拓いた若き情熱 1930年協会から独立へ」を開催
2016年11月1日	開館20周年

田辺市立美術館 NEWS ORANGE vol.25

アンケート

1. どこで本紙を手に入れましたか

田辺市立美術館 ・ 熊野古道なかへち美術館
その他()

2. 「ORANGE」を読むのは何回目ですか

初めて ・ 2～3回目 ・ 5回程度 ・ 毎号見ている
その他()

3. 印象に残った記事がありましたら、その記事のタイトルとご感想をお聞かせください

タイトル()
ご感想

4. 「ORANGE」に対するご意見がありましたらご自由にお書きください

5. 差し支えなければ年齢と性別を教えてください

()歳 (男性 ・ 女性)

ご協力ありがとうございました。